

クトゥルフ神話TRPG用ミニシ ナリオ「隠れ鬼」

ユキ・オトコ

時代背景

1970年代に都市部から離れたベッドタウンで、友達とかくれんぼを遊んでいるうちに一人の子供が行方不明になる事件が起きた。

この町はベッドタウン開発の競争に圧され、今では駅周辺を除き、1980年に閉鎖した複合ショッピングセンターの跡地が広がっているだけである。

時代は移り2010年。探索者たちはホラーツアーの参加者としてこの町にたどり着く。

この地域に、「隠れ鬼」と言われる鬼遊び・怪談話が存在していた。

ルールは三つ

「子が鬼を探す」「隠れた鬼を子は探してはいけない」「隠れていない鬼を子は見ることが出来る」

という奇妙なルールだった。

シナリオに登場するNPC達

1 ツアーガイド（28歳。思わせぶりな内容は企画会社の受け売り。実際には何も知らない。本部と連絡を試みたり、助けを求めようと頑張るが、探索者がバスから動こうとしない場合、彼女に被害がでる。）

2 観光客1（カップルの男性。26歳。バカ。探索者が全力でフォローしないと高確率で死亡。むしろ演出のために死んでもらうほうが良い。）

3 観光客2（カップルの女性。24歳。相方の男性が死ぬとヤンデレ化し殺人鬼となる。弱い女性かと思いきや一流の殺人鬼としての素養を持っている。）

4 観光客3（怖いもの好き大学生。21歳。図書館情報1及び2を保有。探索時間が延びれば殺されてしまうかもしれない。）

5 観光客4（ルポライター。35歳。図書館情報3と企画会社情報3を保有。探索時間が延びれば殺されてしまうかもしれない。）

6 バスの運転手（23歳。地元民であり、企画会社に雇われただけ。運ちゃんらしく、意外としぶとく生き残るかもしれない。）

1 ツアー参加。

ツアーガイドがバスの中で企画会社情報1及び2を供述し、地元民であるバスの運転手も「その事件はリアルタイムで知っている」と真実味を増すような言動をさせる。

目的地到達。お手洗いの場所を説明

ツアーガイドさんと運転手も同行してくれる。ガイドさんがお手洗いの場所そのものかお手洗い内の水の流れる（使える）場所を失念していた場合、運転手が丁寧に答えを教えてくれる。

そのあとは探索者たちの顔合わせと建物の下見にどうぞ。基本的にNPCの好感度やらもここで決まるといっても過言ではないだろう。

2 ツアー終了。

時間がたってもカップルたちは戻ってこない。バスの中で待っていると「すげーものを見つけた」と興奮した調子でカップルが参加者たちに呼びかける。

そのままカップルの男を野放しにすると彼は「隠れている鬼」を見つけてしまい殺害される。

カップルの女性は発狂。探索者たちは逃げようとするものの車が動かなくなる。

3 ガソリン等の燃料確保のため、他NPCと協力して建物内を搜索する。しかし、カップルの女性を野放しにする、もしくは女性に凶器を持たせると殺人鬼と成り果てて探索者たちを無差別に攻撃する。

4 女性や「隠れている鬼」から逃げながら情報集めを行い、核心に迫る。

5 一連の騒動の原因である「鬼」を見つけ出し、バスの燃料確保。女殺人鬼から逃げつつシナリオクリア。

企画会社情報

1.
隠れ鬼は三つルールがある「子が鬼を探す」「隠れた鬼を子は探してはいけない」「隠れていない鬼は人に見える」
2.
隠れ鬼は本来、鬼が隠れた子を探すものだが、この地域では「鬼」とは「自分を失っており」、「隠れてしまった自分」を探して彷徨っているため、子がその手助けをする風習になった。
3.
実は、企画会社も内容はよく知らないままツアーを組んでおり、今回は3年ぶり3回目のツアーらしい。

図書館情報

1.
当時子供が行方不明になったのは本当であり、当時は警察隊が出動する騒ぎになったが、死体どころか足跡さえ見つけられずじまいだった。
2.
子供が行方不明になった後も、この隠れ鬼は続いたらしいが度々子供の変死や失踪が起きるようになって段々と自粛されるようになってきたらしい。最後の失踪事件は1985年が最後である。
3.
最後に失踪があったのがこのショッピングセンター跡地である。そして、この「隠れ鬼」の特徴（以下概要）。

「隠れ鬼」は二つのものを指している。

「隠れた鬼」25年前に死んだ人間の死体。探索者たちが見つけると問答無用で食い殺しに襲い掛かる。*襲い掛かる鬼ではあるが「隠れてしまった自分」である。

「隠れていない鬼（子）」死んだ人間の魂。「自分を失った鬼」そのもの。

NPC

バスガイドさん 探索者がバスから動こうとしない場合、幸運50で一度失敗で負傷、二度連続失敗で死亡のリスクを負う。

大学生 探索者に同行し、二か所探索するごとに幸運70で判定、一度失敗で負傷、二度失敗で死亡のリスクを負う。（鬼かカップルの女かはKPの判断で。）

ルポライター 探索者とは別の行動を好む。探索者が三か所探索するごとに幸運60で判定、一度失敗で災厄に見舞われる。カップルの女性に襲われる、もしくは藪を突いて鬼を引き出してしまった際には探索者が聞き耳及び幸運で判定。両方成功で死なずに助けられるかも。

鬼の正体

バスの運転手。

ツアー冒頭でお手洗いの先導をしたり、「ツアー経験者」しか知りえない情報を持っていることをほのめかす言動をする（お手洗いの使える場所を知っていたりする）。そのうえで「自分は今回初めてこのツアーのバス運転を頼まれた」と明言しておく。もう一つのヒントは「事件が起きたのが25年前なのに、23歳と明言している」こと。そのうえで「その事件をリアルタイム（テレビで見て）で知っていた」とツアー冒頭で供述させること。

「自分を失った鬼」が「正しいことを言えない（言わない）」ことから、探索者たちが「鬼」を見つけられるようにする。

エピローグ

何とか鬼を見つけて脱出に成功する。運転手は生存者たちを駅まで連れてきたあたりで消滅する。

新聞にはその失踪殺人事件のことで一時的ににぎわうようになる。

カップルの女性の行方は不明のまま。

.....（カップル男以外の死傷者ゼロ）そのショッピングモール後では「消えた鬼を追い続ける子」がいるといううわさが流れる

.....一年後、

その事件の記事で一躍有名になったライターの死亡記事

大学生の失踪事件のニュース

企画会社の建物が火事で焼失する記事
のいずれかが出て終了

クトゥルフ神話TRPG用ミニシナリオ「隠れ鬼」

<http://p.booklog.jp/book/65320>

著者：ユキ・オトコ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/cthulhutrpg/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/65320>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/65320>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ